

	岡山大学 保健系分野（歯学）
学部・研究科名	歯学部（第1年次：48名、第3年次：5名） 医歯薬学総合研究科（M：60名、D：138名）
沿革・設置目的	昭和54年、歯学に関する教育・研究を行うことを目的とし、岡山大学歯学部が設置された。 昭和24年（1949年） 岡山大学設置 昭和54年（1979年） 岡山大学歯学部設置 昭和61年（1986年） 大学院歯学研究科設置（平成17年（2005年）に医歯薬学総合研究科に改組） 平成16年（2004年） 国立大学法人に移行
強みや特色などの役割	<ul style="list-style-type: none"> ○ 岡山大学の理念等に基づき、超高齢社会における医療現場や地域社会の福祉につながる歯科医療及び国民の保健衛生に貢献するため、研究マインドを持つ臨床歯科医師、国際的な研究者及び教育者の養成を積極的に推進する。 ○ 岡山県が世界シェア100%を誇る天然多糖プルランを用いた医用材料の開発、医歯薬分野連携による国際的な分子イメージング研究を始めとする各領域における研究の実績を活かして、先端的で特色ある研究を推進し、新たな歯科医療技術の開発・実用化や歯科医療水準の向上を目指すとともに、次代を担う人材を育成する。 ○ 口腔感染症と全身疾患、加齢や各種疾患による摂食・嚥下・発音機能低下、口腔運動疾患、口腔領域のがん、小児・希少疾患、難病等に関する診療を通じて、超高齢社会における歯科医療の向上に貢献するとともに医科歯科連携による診療を推進し、岡山県等における地域歯科医療の中核的役割を果たす。 ○ 大学院博士課程における疫学研究や基礎研究を組み合わせた臨床専門医コースの開設や全国公募型臨床研究デザインワークショップの開催等により、研究マインドを持った高度専門人材の育成に積極的に取り組むとともに、全国的な歯科医師の資質向上や国民への普及啓発に積極的に取り組む。